

# 第3号 稲作管理特報

平成30年5月25日  
朝 日 町  
黒東地域農業技術者協議会

「穂数型稲」に向け、初期茎数の確保が重要です。中干しまでは浅水管理を続け、分けつの発生を促しましょう。

今年は、田植後の低温により、植え痛みや活着遅れが目立ちましたが、今後は平年並に生育が進むと予想されることから、田植後1カ月頃を目安に「溝掘り・中干し」作業を進め、夏の高温に耐えうるしっかりとした「根づくり」に取り組みましょう。

## 【これからの水管理のイメージ】



## 1. 浅水管理 ～初期茎数を確保する～

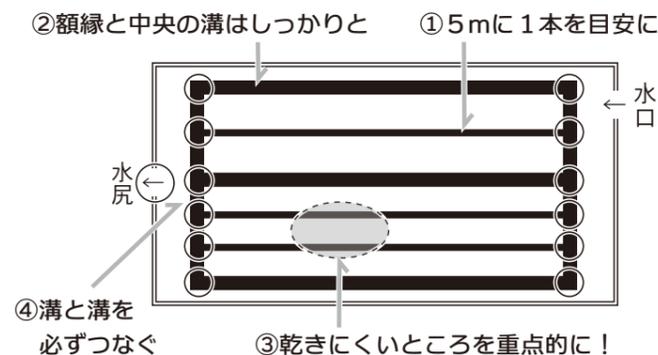
- ・中干しまでは、浅水管理で水温を高め、分けつの発生を促しましょう。
- ・アオモが発生したり、ブクブクとわいているほ場、葉色の淡いほ場は、軽い田干しを行いましょう。

## 2. 溝掘り ～中干しの効果を高める～

- ・溝掘りは、中干し前に必ず実施しましょう。

### 溝掘りのポイント

- ・軽く田干しを行い、泥を落ち着かせて溝を掘る。
- ・溝の間隔は、5mに1本を目安に行う。
- ・ほ場の周囲と中央の1本は、特にしっかりと掘る。
- ・溝は、水尻まで確実に連結する。

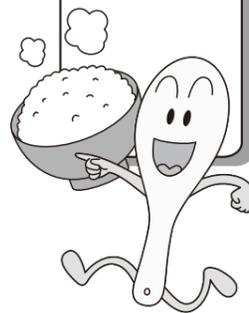


### 【直播栽培の水管理】

- ・除草剤散布前に水を入れ替える
- ・わいているほ場は、軽い田干しを行う



『溝掘り・中干し』は適期を逃さずに行い、しっかりと根を伸ばそう！



## ● 溝掘りの効果

- ① ほ場のすみずみまで均一に干すことができる。
- ② 間断かん水の際など、水の出し入れがスムーズに行える。

## 3. 中干し ～根の量をしっかりと増やす～

- ・中干しは、田植後1カ月頃（70株植えの場合：株当たり16本程度）から開始し、本格的な梅雨の前にしっかりと干しあげましょう。
- ・中干しが遅れると根張りが悪くなり、青米や乳白粒が発生する原因となります。

### 中干しのポイント

- ・田面に小さなひび割れが入り長靴の跡がつく程度まで干す。
- ・表面に水がなくても足が沈むようでは不十分です。



【中干し終了頃のほ場の状態】

※茎数が多くなりやすい田や乾きにくい田は、やや強めに干しましょう。

（ただし、長くても連続1週間以内とし、週に一度は入水する。）

※茎数が少なめの田や乾きやすい田は、一度に干しあげないようにしましょう。

（1日湛水、2～3日落水の「間断かん水」により、地固めする。）

## ● 中干しの効果

- ① 根の伸長を促進する。
- ② 過剰な分けつを抑制する。
- ③ 出穂後の湛水管理に備えてほ場を固くする。
- ④ ほ場を固くすることで、秋のコンバイン作業が効率的に行える。



【中干しの有無が根の生育に及ぼす影響】

▲みな穂 あさひ営農経済センター(大家庄) ☎ 83-3212

新川農林振興センター農業普及課 ☎ 52-0094

◎ みらーれTVで農業情報番組「あぐりアイ新川」放送中。(6:55、13:55、23:55)

◎ NHKラジオ第一で、「農作業メモ」放送(月～金の11:50～12:00のうち1分間。祝祭日を除く)

▲みな穂 あさひ営農経済センター(南保) ☎ 83-1139